

発行所〓社会通信社 発行人〓滝野 忠

ホームページ <http://shakaitsushin.cool.coocan.jp/> e-mail: shakaitsushin@nifty.com

東京都渋谷区本町六丁目二八―二九〇四 電話・FAX(03)3299―5367

郵便振替〓〇〇一〇〇―九―五八四三一 労金〓中央労金本店No.1154163

〈もくじ〉

■巻頭言■

戦争の長期化

編集部：2

国際情勢の変化

東海再処理工場の恐怖

原野人：4

階級協調めざす―「令和臨調」

蓑輪 泰臣：6

釣れませんでした

小林 義昭：10

―闘争団の仲間めぐる旅―

安倍氏国葬反対集会開催！

沢井 清：13

―安倍氏国葬は憲法問題だ―

読者からのおたより

.....13

本の紹介 原野人著『牙を抜かれたマルクス主義

.....14

―斎藤幸平とマルクス・向坂・資本論―

刊旬 社会通信

NO.1367

二〇二二年九月一日号

二〇二二年九月一日発行
(毎月一日・二五日二回発行)

戦争の長期化

国際情勢の変化

長期戦

戦争は長引いている。戦場はヨーロッパ大陸のど真ん中のウクライナ、ウクライナの利権―石炭・鉄鉱石・ウラン・チタン・カリなどの鉱物資源、小麦・トウモロコシ・じゃがいもなどの農産物、ウクライナ権力者や国際的独占体が声高に叫びはじめた復興経費一兆ドルをめぐり、ふるい帝国主義国のG7・NATO連合軍とあたらしい帝国主義国ロシアの対立・抗争、戦争である。

戦争の長期化は、戦争“風化”の進行でもある。映像メディアに開戦当時の熱気は消えた。ウクライナ本、プーチン本も売れない、捌（さば）けていない。米英メディアはウクライナ劣勢とロシアの東部・南部攻勢を強く伝える。そして、ロシアの“残虐”行為をつけ加え伝える。

ミサイルが飛ぶ、映像は暫壕戦を映す。陣地戦である。『西部戦線異状なし』（エレンブルグ）や『カタロニア賛歌』（オーウエル）が浮かぶ。戦争は殺し合いである。

拡大

食糧―小麦・とうもろこし―の流通で合意がなかった。国連、トルコの仲介でロシア、ウクライナが握手した。第一便のみで後が続かない。停戦は見えない。戦争は拡大している。NATOはロシア包囲網を強める、ウクライナ兵を訓練し、最新兵器を送る。ゼレンスキーは「弾丸（たま）切れが苦戦の原因、兵器を送れ、それも最新式の」と叫ぶ。ゼレンスキーは俳優である、演技はお手の物である。

ウクライナの兵器廠（しょう）は米国だ。開戦からたった6ヶ月で軍事支援は百億ドルを超えた。バイデン大統領は第二次世界大戦をまね、400億ドルもの武器貸与法を準備した。バイデンは①ロシアを疲弊させ、足腰たたない状況をつくる、それには②ウクライナが望むすべてを与える状況をつくることが終戦の条件と。

プーチンは①領土を取りもどし、国を強くするのが任務、②すべての目的を達成するまで戦争をつづける、③戦争の期限について語る必要はない、と。最大ゼレンスキー打倒、最低東部支配を目標にする。ゼレンスキーは①侵攻前の境界に戻せば暫定的な勝利、②クリミア半島など含む領土の完全回復、を絶叫する。評論家どもの予想は当たったためしはない。たしかなことは戦争はまだ続く。

NATO連合軍は米国・EU軍でつくられる。米、英そしてEUの思惑のちがいはつきりしてきた。バイデンは、ウクライナ抜きにして決めない、領土で妥協するよう圧力かけない、とウクライナをけしかける。マクロンはロシアに屈辱（くつじよく）をあたえてはならない。望ましい結果はウクライナが軍事的に勝利し、停戦を話しようことと、少しばかりおとなしい。

世界の動きはますます激しくなっている。ペロシの台湾訪問は、中国政治の核心的利益の大きさ、重さをあらためて鮮明にした。ウクライナ、台湾海峡をめぐる問題は核戦争、第三次世界大戦の脅威もふくらむ。もっと具体的なのが、二つの原発をめぐる陣取り合戦である。戦争は心理戦、諜報戦、情報戦でもある。

核

キューバ危機との対比がいわれる。キューバとウクライナは条件がちがう。「唯物史観はイデオロギー」と切って捨てる小ブル・インテリどもや「反共主義」をイデオロギー」とする安倍一族どもは、情勢―世界はむろん日本のも―正しく説き明かすことはできない。「NATOの新戦略―冷戦時代に逆戻りか」と、いうようにである。少しばかり大きな書店に行ってみるが良い。「〇〇資本主義」の本が、いかに多いことか。著者たちは資本主義の本質をみない。あらわれた資本主義の現象、姿に売らんかな売れるかなと名をつける。中国についていえば「共産党資本主義」、「国家資本主義」、「権威資本主義」というように。中味、内容はなに一つない。

キューバ危機とは何であつたか。キューバはアメリカからの独立、社会主義をめざした。帝国主義はキューバ革命を押しつぶすため何んでもやつた。今もそうである。サボタージュ、武力による謀略、カストロたち指導者暗殺計画、経済封鎖、米州機構を使った政治的孤立、侵略反革命行動というように、キューバとアメリカの関係に、帝国主義の反革命がすべてみれる。ベネズエラもそうであつた。

アメリカに残された方策はキューバへの直接侵入であつた。キューバはそれへの対抗策として、ソ連と戦略核兵器をキューバに配置する協定を結んだ。その結果が10月のキューバ危機、2つの社会体制の階級闘争である。危機解決の条件として、アメリカはキューバを攻撃しないと約束した。キューバそして社会主義体制が勝利した。

核の影が世界を襲う事態となつた。核、原発をめぐる発現であり、こんな発現をおるカルト学者たちである。帝国主義が核の脅威を大きくする。

黒海、台湾海峡

戦争の長期化は戦争の拡大でもある。「臨戦体制」というのは、①戦時を想定する緊急即欧部隊の大幅増強、②ロシア他との「世界戦争」にもっと備えよとの軍事費GDP2%超強制、③ウクライナへの武器支援強制をいう。実態は米国中心、EU諸国はおよび腰である。背景にあるのが「中・ロは敵」と定めた「新戦力概念」だ。

これは、NATOの「戦争継続」宣言である。かくして、戦争は終わらない。戦争を終わらせる条件は、「帝国主義戦争反対」の世界とロシア・ウクライナ労働者階級の反戦運動である。

制裁

戦争拡大は現実である。NATOは北欧2国の加盟を承認した。日本や韓国のような、NATOと遠く離れた国を招待し、ロシアとの戦争熱をあおりたてる。そればかりではない。2国間同盟を基礎に、多国間の軍事同盟を急ぐ。①AUKUS、②QUAD、③米国主導の政治・経済同盟の民主主義同盟、そしてIPEFである。

ウクライナへの武器輸出は天に昇る。米国の武器輸出は百億ドルを超えた。ヨボヨボ、ヘタヘタのバイデン大統領は、第二次世界大戦をウクライナ戦争にたとえるかのように「武器支援法」をつくった。さらに億ドルをウクライナに投ずるといふのだ。ぼう大な軍事、民生支援はウクライナをドルのしやぶ漬けにする。投機がさかになる、腐敗と墮落である。

ロシアへの経済、政治制裁で、世界はロシアがすぐにでも「ごめんなさい」という

かに夢想した、貿易は小さくなり、財政は赤字になり、株価、ルーブルは急落し、経済はたちゆかなくなると。戦争から6ヶ月、制裁は目に見える効果を上げてはいない。戦争の影響は周辺国、そして世界に拡がる。ロシアはドンバス制圧に力を注ぐ。ソ連崩壊後の係争地であるカリーニングラード（リトアニア）、沿ドニエステル（モルトバ）、南方セチア（ジョージア）、チェチュン等の動きは要注意だ。

フィンランド、スエーデンがNATOに加盟した。スウェーデンの加盟はトルコのクルド問題に波及した。クルドは国をもたない最大の民族であり、係争地のトルコ、シリア、イラクと国境を接する。

G7、EUの国々がNATOへの同盟を強めるように、ロシアは旧ソ連圏の友好国と同盟を強める。「非」「反」米国と米国との対立、抗争は鋭く、強く、大きくなる。

世界情勢

戦争は帝国主義国間の矛盾をいっそう深める方向に作用している。戦争は天然資源、農産物の流通を止める。油、ガス、小麦、とうもろこしは、ありあまるほどある。実態は過剰である。しかし、独占資本とその政府は戦争を口実に価格をつり上げる。インフレは戦争前からはげしくなっていた。戦争がそれに拍車をかけた。二ヶタインフレがEU、米国に襲いかかる。

政治も動乱傾向がみえる。フランス総選挙で権力者マクロンがまけた。イギリスでも権力者ジョンソンが首を切られた。ドイツの権力者シュルツも同じだ。

世界を仕切ってきた米国に勢いが無い。その姿はバイデンじいさんに象徴される。中間選挙は3ヶ月に迫った。よたよた、よぼよぼのバイデンじいさんにトランプの置きみやげが直撃する。米国が人権と無縁な国であることを中絶、移民、環境、銃の諸問題が暴露する。同時に、資本が権力にとって最後でもっとも強力な機関であることをである。

中南米諸国の動向も米国支持一辺倒ではなくなった。6月行われた米州（23ヶ国）首脳会議の分裂である。米国は「非」米の傾向を強める中南米諸国を締めつけた。「ならず者」のキューバ、ベネズエラ、ニカラグアと縁を切れと圧力をかけた。中南諸国は反抗した。中南米はじまっていた全体の「反逆」である。8ヶ国が欠席し、2ヶ国が注文をつけた。直後、中南米諸国でもっとも保守的で親米だったコロンビア・コロンビアはベネズエラ打倒の最前線基地として米国の司令を実行した。保守政権の大統領選での敗北である。十月にはブラジルで大統領選がある。（編集部）

東海再処理工場の恐怖

東海再処理工場が武力攻撃を受け、保管されている高レベル放射性廃液の一部が外部に放出された場合、首都圏を中心に最悪で四十万人の死者が出ると試算したリポートを、環境経済研究所（東京都千代田区）所長の上岡直見・法政大学非常勤講師が公表した。

人間が近づけば即死するほどの放射能

東海再処理工場には、使用済み核燃料を再処理して核燃料（プルトニウムとウラン）

を分離した残り滓（かす）の核分裂生成物（セシウムなど）を高濃度で含む廃液が、2021年3月時点で三百五十八立方メートルもある。放射能は人間が近づけば即死するほど高い。

上岡氏は廃液貯槽自体が武力攻撃で破損して人間による応急対応が不可能になり、十日間にわたって廃液の漏洩が続くと仮定。原子力規制庁が東海再処理施設のリスクを調査した十三年の報告書に基づき、廃液中の放射性物質を四二〇京ベクレル（京は兆の一万倍）とし、セシウムなどが全体の二〇%（八四京ベクレル）放出されるケースをシミュレーションした。

この放出量は、東電福島第一原発事故由来で現在も環境中に残る放射性セシウムの二五倍ほどに相当するとみられる。

二〇%の放出で四十万人の死者

試算では、これだけの放射性物質が北東から東京方面に吹く風でまき散らされる「最悪ケース」（上岡氏）を想定。拡散状況を、原子力委員会が策定した原発の安全解析のための気象指針に準拠して計算した。

その結果を、チェルノブイリ事故後にウクライナで定められた放射能汚染地域の区分（チェルノブイリ基準）に当てはめたところ、茨木、栃木、千葉各県の広い範囲で強制移住（年間の被ばく量が五ミリシーベルト以上など）の対象に。被ばくによる人体への確率的影響を評価すると、死者数の推計は、施設周辺や人口の多い東京都心とその近郊を中心に四十万人になった。このほか、死亡に至らない健康被害も起きる。

すでに核の「逆シェアリング」状態

武力攻撃の態様についてはミサイル攻撃よりも特殊部隊が携行兵器で原子力施設を狙うリスクの方が高いと指摘（*）。仮に自衛隊などが警備を強化したとしても相手を排除する過程で交戦が起こり、施設の破壊を招きかねないとの見解を示す。

日本国内に米国の核兵器を配備して日米で共同運用する「核シェアリング（共有）」の議論を求める声が安倍晋三元首相や日本維新の会の松井一郎代表（大阪市長）から上がっているが、こうした主張に対し、上岡氏は「現状がすでに『逆シェアリング』で、対立国家の核兵器をわざわざ国内に誘致しているのと同じ」と疑問視。「本質的な安全保障の第一歩は、脱原発と核物質の撤去だ」と訴える。（*ミサイルや艦砲射撃の方が安全という意味ではない。）

原発は即時稼働中止、参戦も戦争準備・軍備増強も禁止以外にない

プルトニウムを有効活用できるはずの高速増殖炉「もんじゅ」はとうに破産して解体中であり、巨兆の国費を浪費しながら青森県に建設中の再処理工場は二六回も完成が延期され、スクラップにするほかはない。だがここにも試運転によって生じた高レベル廃液は二百四十七立方メートルもある。東海村でも六ヶ所村でもこの廃液は速やかにガラス固化する以外にない。原発の稼働は全面即時中止。いかなる開戦、参戦も無条件に禁止だ。

「電力不足」は見え透いた嘘

最近の「電力不足」、「電力危機」の宣伝ほど見え透いた嘘もない。どんな猛暑日で

あれ、原発抜きで全国の発電施設は十分にある。休止させている火力発電を速やかに稼働させることで十分な電力を供給することができる。

しかも火力発電所が活躍しているのは9電力だけではない。石油化学コンビナート、パルプ、鉄鋼等々の多くの産業では火力発電所等を持っている。必要な時はそれらから9電力は電力を購入することができる。

日銀と政府の超低金利政策によって、輸入石油、LNG等の価格が上がり、発電コストが上がっている今日、9電力は原発の再稼働を狙って、「電力不足」を喧伝する。今年は原発を9機も稼働させるという。

エネルギー源の輸入をなくするためにも、「エネルギー危機」や「電力危機」をなくするためにも、洋上風力発電を建設することこそ最善の道なのに。

大型火力さらに原発へと資本の有機的組成を大いに高度化させて雇用を減らすことができたのに、風力などによってこれに逆行し（装置が多数に分散して）雇用が増えることを嫌がっているらしい。

（原 野人）

階級協調めざすー「令和臨調」

「令和臨調」の雄たけびが聞こえてきている。

またまたできてきました。古くて新しい言葉「臨調」です。今回で四回目です。今回の「毒羊かん」は『令和臨調』と呼ばれるものとなっていますよ。「臨調・行革」といえば、1982年の『中曽根臨調・行革』を誰もが思い出すことでしょう。

本論に入る前に、まず「臨調・行革」の歴史をカジルことから始めましょう。

中曽根さんはいへん階級的でした。中曽根さんだけじゃありません。資本家階級、とくに独占的資本の経営者、官僚、彼らに養ってもらっている学者・文化人という人種、ブルジョア・メディア、みんなそうです。

中曽根さんは言いました。「憲法をつくる力が憲法だ、お座敷をきれいにしたりっぱな憲法を安置する」そして始めたのが憲法を守る砦であった階級的労働運動の機関車の国労解体を突破口に総評・社会党をなき物にする暴力的かつ思想的な攻撃です。この攻撃は労働戦線の右翼的再編と政界再編としてもありました。

政界再編、社会主義政党を排除する政治のしくみをつくりたいとする独占資本による独占資本のための政治体制づくりです。

そのためにつくられたのが1992年の民間政治臨調（政治改革推進協議会）です。民間政治臨調は、「政治の腐敗の原因は中選挙区という政治制度にある」と、小選挙区制導入をめざしたのです。細川護熙という「道楽」政治家を総支配勢力は政界に送り込んだのです。そのあとつくられたのが1999年の21世紀臨調です。この組織はつくられただけで、たち消えてしまいました。

「令和臨調」はしたがって、4回め、中曽根臨調から40年の今、「なぜいまさら臨調なのか」、今回の羊かんのお味について、かじってみることにしました。

資本主義と労働者

この「臨調」「行革」という大合理化に挑戦する前に、これだけは絶対に押さえておきたいことをまず述べておきます。それは「生産性増大と私たち労働者の生活」に

ついでです。本物の羊かんが大好きな向坂逸郎先生が、『月刊 こくろう』（71年3月号）に書かれたものですが、分かりやすい文章なので、紹介します。

【資本は、他の資本と競争して、これに勝ってより多くの利潤を獲得するために、優れた技術を用いる。したがって、原則として資本主義は、資本の有機的組成を高度にしてい、したがって、資本は原則として蓄積され集積されて行く、集中もされる。つまり大きくなる。

高度の技術を産業に用いることが、「人間尊重」であるためには、労働時間を減らすこと、失業者を出さないこと、賃金を高くすること、人減らし合理化をしないことである。「利潤の公正配分」は、搾取階級と被搾取階級の敵対的に対立する社会で、ありうるかどうかを考えて見たらよい。労働者階級が創り出したものを搾取している。それを利益の配分などというのは、ごまかしである。資本主義社会で高度な技術を採用することは、利潤は大きくなるが、賃金を低くする方策である。産業予備軍をつくら、労働力の供給を増大させるからである。

マルクスは、マルサスに痛烈な悪口をあげている。マルサスは、労働者が貧乏するのは、子供を産みすぎるからであるといった。事実は資本主義の制度そのものが本来人間の幸福のためにある技術を、人間の首切りのために、人間の生活を奪うために、不安定にするために、人間を貧乏させるために、適用してしまうからである。利潤、出来るだけ多くの利潤を生むために、技術を使うからである。技術そのものが悪いのではない。技術を使う資本主義という社会制度が悪いのである。資本主義の中では、そのように適用せざるを得ないようになっている。

独占資本主義の時代になったら、国の内外の独占資本の競争のために、高額の独占利潤を獲得する激しい競争のために、高度に発展した技術を用いて、死にも狂いになっている。したがって「人間尊重」どころか、人間の首をきらざるをえなくなっている。いわゆる体制的な資本主義的合理化の時代である。非人間として扱われていることを、人間がさとりえないように、あらゆるごまかし、詭弁を用いて、労働者が独立の人格であることを自覚しないように、人間の動物的弱点を助長することに務めている。映画、週刊誌、テレビ、小説、これみな人間を馬鹿にするからくりになっている。】
『国労反合理化の闘いに寄す』

この文は『労働者とともに』（労働大学刊）に載せられています。

はじめに書きましたように、改めて、「資本主義とはどのような社会なのか」を吟味してから次へと進んでいきます。

中曽根臨調・行革

中曽根臨調、行革とは、どのような主張であったのか、振り返ってみましょう。『社会通信』はくり返しこの問題にふれています。1983年2月21日号では「臨調路線を貫徹」「総合安保」が観点とこう書いています。

「83予算には、臨調にもとづく行政改革路線がみごとに貫徹されている。臨調答申の示した行革の中身は、決して一方的な行政の削減による「財政再建」などではなかった。経済成長率の低下と税収の伸びの鈍化等、我が国の行政を取り巻く厳しい状況の下で行政の役割を真に必要な分野に集中していくためには、高度成長期以来肥大

化した行政を・・・根本的に見直す必要がある、として、農業・社会保障・文教のように・・・責任領域の見直しが必要なもの、また、外交、経済協力、防衛のように本来的に行政の責任領域に属するものを明示し、行政の国民生活関連部門を軒なみいわば、『スクラップ』して、強固な帝国主義国家の構築のために必要な部門を『ビルド』していくことを、今後の「国の歩み」の基本としたのである。」と。

さらに具体的には、①防衛・経済協力の突出②社会保障費の実質マイナス③私学助成金削減を含む文教費の削減④農業の切り捨て⑤自治体費（地方交付税削減）⑥大企業向けの公共工事費の充実⑦原発20%増⑧経済協力費の増大等が行われた。

臨調と自民党政府は、「増税なき財政再建」と「59年度に赤字国債をゼロにする」との大原則をかけたが、破綻が明確になった。臨調第二部会の分科会報告で「直間比率（税収における直接税「租税」と間接税「消費税」の比率）の問題も含めて積極的に検討をすすめる」として「直接税率は5対5にするのが当たり前」と官房長官が述べている。7対3を5対5にする、まさに、大型間接税（消費税）である。

結論的に言えば、賃金・福祉切り捨て・合理化・首切り・インフレ・大増税・そして平和への脅威、4重苦・5重苦を勤労国民におしつけ、大独占には、軍事費・公共事業費・経済協力費・補助金・租税特別措置で膨大な儲けを保証している予算である。」と臨調・行革を追及しています。今の社会は『通信』が書いたとおりとなっています。なのに、なぜ、なぜまた「行革」、「令和臨調」なのでしょう。

主張

「令和臨調」はどのようなことを言うているのか、「中曽根臨調・行革」と、どこが違うのか（本質は一緒だが）。

中心メンバーは、日本生産性本部会長のキッコーマン茂木名誉会長、民間政治臨調から中心の佐々木毅元東大校長、財界そして官僚の代表である三菱ケミカルホールディングス小林取締役、増田日本郵便社長の4人とあります。過去2回の臨調にかかわった老人たちです。この組織を仕切るのが日本生産性本部なんです。事務局もここにあります。内容をかいつまんで紹介します。

① コロナ禍の危機はそれ以前から社会にあつた断層を露出させることになる。放置しておけば、対立と分断は尖鋭化するばかりである。「断層」なんて言葉いやです。ね。矛盾が大きく深くなっていることです。

② コロナ禍はデジタルトランスフォーメーションの劇的な変化に対応しつつ、第四次産業革命（第四次産業革命とは、IoT（モノのインターネット）やAI（人工知能）、ビッグデータを用いた技術革新のこと）を推進する強力な契機になるが、それは格差問題などのさらなる深刻化につながり得る。それへの対策としての大胆な財政出動は深刻な財政状態の悪化と株価変動による資産格差の増幅という新たな難題を生み出している。さながら、制御不能な玉突き事故を見ているように。ここも同じで矛盾は拡大することを恐れています。

③ コロナ禍の中で、政府の権限・機能は水際対策から医療資源の調達までを含めて急速に広まる可能性が出てきた。これはいや応なしに脱グローバリゼーションへとかじ切ることにつながり、これまでの自由化一辺倒の路線から必要に応じた自由の制

限という苦手な政策領域へと足を踏み込むことになった。国家独占資本主義の体制はさらに強められます。

④ 非自由主義体制との境界線の曖昧化につながりかねない側面をはらんでいる。資本主義の「売り」の自由がなくなるといことなのでしよう。

⑤ ポスト・コロナ禍へのスタートは急速な人口減少とGDP（国内総生産）20%に上る財政赤字という条件によって制約されざるを得ない。ここでいわれているのもっとも基本的な矛盾の拡大です。

⑥ コロナ危機は地球環境問題へのグローバルな関心を喚起するのは必至であり、さらには安全保障環境の厳しさも避けては通れない課題を突き付けている。

6つの大きな矛盾が指摘されています。これら矛盾は過去も現在も変わることなく発展しつづけるのです。冒頭に向坂先生の言葉を引用しましたが、資本主義の維持と発展、したがって行革は矛盾を拡大することなんですね。資本主義はかならず労働者に闘う材料を与えてくれるということです。

2つの道

臨調は、「日本の民主制には二つの道がある」と指摘します。その1つ（第一の道）、知恵の限りを尽くして粘り強く長期にわたって戦い続け、未来に対する責任を民主制の矜持（きようじ）をかけて果たし続ける道である。

その二つ（第二の道）、かつての経済成長の余剰幻想を引きずりながら眼前の安楽にその都度身を任せ、自己満足のうちに時間を費やすことである。これは日本のポピュリズムというべきものの一変種に他ならず、世界から忘れられた一発展途上国への転落の道である。

いろいろグジャグジャ言っていますが、彼らの言いたいことは「政治の精神を変えなければならぬ。絶望を希望に変えるためにあえて第一の道に結集しようとする参加者の党派は問うところではない。これは党派を超えた民主制の名誉のための、先進国日本の生き残りのための戦いである。」ということです。階級なんてない、みんな友だちだ、仲よくしようと言うわけです。

この第一の道をすすむ決意をしながら、次のように「有権者の皆さんへ」と呼びかけています。

「より良い民主主義を可能にするための国や自治体の仕組み、健康で豊かな暮らしのための長期的な展望、一人ひとりの自由で多様な生き方、働き方に支えられた新たな日本社会を今こそ構築し、実現すべきなのです。」と訴えながら、こう結論づけるのです。「民主主義の危機に立ち向かうために、令和臨調が発足しました」と。

令和臨調とは何かについて、「長期的な展望に立った上で、日本社会にいかなる改革が必要かを議論するために、党派を超えて各界から集まった有志のメンバーによる民間組織です。」と。「党派を超えて」とは、保守も革新もない、階級のない階級協調の社会をつくるということです。

日本丸

さらに、「民主主義の危機」を強調し、「今こそ、共に考え、共に語り、考え、そし

て行動しなければならぬ時です。私たちに残された時間は決して多くはありません。統治構造・財政・社会保障・国土構想を中心に、令和臨調は不転の覚悟で検討を進めます。」と呼びかけています。

民主主義の危機をつくっている犯人が彼らに他なりませんのに。安倍さん銃殺にも現れているのでは。

臨調のメンバーを見てもわかるように、彼らは労働者階級の一人ではありません。独占資本側の一人です。そんな彼らが「垣根を越えて集まり話し会おう」と国民大衆に呼びかけています。

「このままでは日本丸汽船が沈没してしまう。みんなで相談して、沈没しないために何をしなければいけないのかを話し合い、決め合い、実行しよう。日本丸のためには犠牲も覚悟して」と欺瞞です。思想攻撃です。このままでいいのでしょうか。

向坂先生の言葉をもう一度かみしめてください。共同代表の佐々木という人物は、政治改革推進委員会（民間政治臨調）を発足させ、国鉄民営化を提言し、衆議院中選挙区制度の廃止をかけた、実現につなげた。「新しい日本をつくる国民会議（21世紀臨調）」の活動を通して、小選挙区導入の旗振り役でした。

（蓑輪 泰臣）

釣れませんでした

一闘争団の仲間めぐる旅

いつものように、いつものごとく、7月25日から8月3日、北海道を旅しました。北海道は過ごしやすかったです。釣りをしているとちよつと涼し過ぎる感じでした。いつもより天塩川の水温が低い感じで、川沿いに涼しい川風が吹き、ズボンが濡れていることもあって、長袖のシャツでも寒いくらいでした（ecoといねっぶの皆さんは暑いと言っていました）。

大量死

とにかく釣れないですね。全くいいわけではないですが、数が少なくなりました。まとまった雨が降らず天塩川が増水してないので、魚が遡上していかないでしょう。

昨年雨も降らず天塩川の水位が異常に低く、水温が高かったです。サクラマスも支流に遡上できず、本流や支流の下流にいました。

イトウは1回だけ大きな当たりで、小西さんの2号対応の9メートルの竿の下から2番目が一発で折られ、2・5号のハリスも針のすぐ上から切られてしまいました。それ以外は40cm程度が3名で2匹でした。

そして問寒別（いつも行く中川の間寒別川の吐出口）で70cm以上のイトウが3尾、昨晚に砂浜に上がったのでしよう。別の所でも2尾、ニップ川の発電所の放水口の所に大型の魚（水中なのでよく分かりませんが、ニジマスかサクラだと思えます）が10尾以上水中に死んでいました。我われが見えるところそれだけの数ですから、天塩川の川全体ではべらぼうもない数の大型魚が死んだのだらうと思います。

来年は一緒に

先日シマノの釣り番組で井上聡氏（溪流インストラクター）が「昨年は北海道の川で

大型魚が多数死んだ」といつていました。2日間で石狩川と天塩川で数尾のニジマス釣っていました。B-S-T-B-Sテレビの30分番組ですから、スタッフも含めて相当の人が動いたのだろうと思います（その人でさえそんな状況ですから）。しばらく影響するのだろうと思います（ニジマスは比較的成長が早く、多分4〜5年で60cm以上になるでしょうが、イトウは60〜70cmなるのに10年前後かかるのだろうと思います）。それでもイトウ釣り初日に60cm以上が1尾（針の掛が浅かったのか、姿は見えましたが外れた）、2日目に50cm台が1尾釣れました。

まとまった雨が降らない上に、一旦大雨になれば天塩川もニップ川も川の形相が変わってしまい、当たる当たらないはバクチのようなもので、当たらない方が多いですね。そのうちに当たるのでないかと竿出しているのが、釣りバカなのでしょうね（時間との勝負です。来年こそ一緒にしましょう。みんなギラツクほど馬力がなくなりました）。「お任せ定食」で大丈夫です。

皆さんの状況

人のことは言えませんが、みんな年をとり、年齢の自覚がないのは本人のみ。音威子府のみなさんは65歳前後で若い・しっかりしていると感じさせます。

今回は佐久市に住んでいる菅原須磨子さん（85歳）と行きのフェリーと旭川市で彼女の友だちの家に一緒に泊めさせてもらいました（菅原さんは1カ月いるとか）。

朝食がおかゆと南高梅（これが立派な梅で3L、10kgを減塩で毎年夫さんが作る）、「普段はおかゆも梅干しも食べない」と言いつつ、おかゆも御代わりし、梅干しも2個。帰りの8月1日の朝食時間に寄るとおかゆに摘んだヨモギの芽をサツと湯がいて刻んだのをかけて、風味があつて美味しいと食べていました。私も初めてなのでおかゆにかけて食べましたが、とにかく固いこと、歯に挟まって大変でした。今どきの「新芽」などヒグマも食べないのに、旨そうに食べていました。しかも、朝晩2時間かけてゆつくり食べることに、好奇心が元気の秘訣なのかもしれません。

松里福慈（78歳）・愛子さん 体重が60kgを切ったとか。愛子さんの方がしっかりしています。愛犬のキャバリアが14歳になり、立派なおじいさん。松里家では犬の勇人（はやと）、愛子さん、福慈さん（犬からの順番）。キャバリアの寿命から後1年〜2年でしよう。愛子さんの落ち込みが心配です。

木山誠二さん 相変わらず共闘に力を入れており、月5〜6回街宣などを続けています。

ecoおといねっふ 音威子府村の人口が680人まで減少し、黒い蕎麦で有名な音威子府蕎麦も8月末で生産をやめ、後継者に引き継がないとのこと。どこもそうです、小さな村の存続は簡単ではありません。

そんな中でecoおといねっふは、スクールバスや地域バスの運行、木遊館の管理と村にとって大事な存在です。しかも村立美術工芸高校の村外卒業生を2名も採用し、若手が3名働いています。

その一方で設立時からかわってきた（旧闘争団）の仲間が、定年退職の時期を迎えだしています。今年3月には関野政幸さんが退職しました（毎日、朝晩の散歩と韓流ドラマとテレビ麻雀とハツラツとしていた）。

理事長の金児順二さんは、休日に10万円以上の自転車で村内を1日20kmくらい走ることです。

杉山均さん夫婦も定年で音威子府を離れるとのこと(村議後継者を調整中)、事務局の千葉真貴子さんも定年後に生まれた土別市に動きたいとのことでした。

小西邦広さん夫婦は、両親(村内の有料老人施設)、独立している長男、4人家族の次男の9人で、音威子府最大の一族のようです。

道北の旅の思い

私は毎年道北の旧闘争団を訪ねて20年になりました。それは国労本部の指導の下に職場闘争を闘ってきた末端の活動家がJRに採用されず、しかも四党合意で国労本部からも首を切られました。彼ら自身もこんなに長く争議が続くとは考えず、雇用を守る闘いが23年間続いてきました。自分だったら同じ状況で闘い続けられたのか、そして一人ひとりの仲間が人生で最も生き生きとした年代を、自由を満喫できなかった思いを少しでも知り、連帯したいと新潟の酒をもって押しかけていました。

しかも、この度は国鉄闘争を全面的に支援してきた新社会党・道本部幹部から彼らの青春の全精力を注ぎ込んできた国鉄闘争や争議団の生きざまと闘いに疑問を投げられるような対応をとられ、旧国労闘争団党員十数名が党から離れてしまいました。

外部のものとして、お互いが失敗や行き過ぎ、誤解が生じることもままあることです。その時に危機回帰の能力・指導がどうだったのか、考えさせられています。

コロナ感染

帰ってからが大変でした。何だか体調がよろしくない。普段であれば夏風邪程度で近所のかかりつけ医にもかかりませんが、北海道に行ってきたので念のために行きました。医師からもPCRを積極的に進められたわけではなく、こちらからお願ひしました。私のような症状の軽い人、若い人は仕事を休んでまで病院に行かず、市販の風邪薬で回復しつつ、感染を広げているのだろーうと思います。

治療2日目で気分は良くはないけれど、きわめて軽い風邪の状態、体温36・3度、血中酸素濃度100%、明日から県の自宅療養グループ支援体制から食糧支援や毎日症状を聞く電話が入ることです。ここまでしなくても、状況急変時に連絡が絶対につけられるようにして、もう少し手を抜かないと現場・担当者が大変なことになっていると思います(※追　その後毎日SMSで「感染者拡大のため健康観察聞き取り電話できません」のメールがきます)。

かかったの感想

① BA・5の感染力は極めて強いようです。帰ってきた3日の夕方から軽い風邪にかかったように症状が出てきました。連れ合いも同じ症状が出て、PCR検査で陽性と出ました。お互いが風邪をひいてもそう相手にうつらないのに、私も心当たりから3日目、彼女も私が帰ってから3日目でした。

② 症状は比較的小さいです。2人とも熱は平熱です。BA・5の特徴なのか、ワクチンのお陰なのか(2人とも3回目のワクチン済み)、体質なのかは分かりません。

③ 現在の治療は咳き止め、熱止め・鼻水を止める薬(一般的風邪薬)と抗ウイルス剤

（試薬・朝晩4カプセルを5日間。まだ試薬扱いで妊婦と子どものみ服用禁、長期の副反応・副作用が分かりませんが、私自身の対応年数が限られていますので）。

③ 換気が一番だと思います。感染力は強いようですから、家庭に入れば、家族はほぼ感染するのではないのでしょうか。事務所などは換気扇をつけて、人のいる方から風が入るようにして換気扇で出す方が良いと思います。感染の心当たりの旭川の宿は換気十分でない部屋に5人が10時間くらい一緒にいたのですから。

※追 14日で自宅治療隔離から解放されます。熱は常に36度台前半、軽いのどの痛みと咳が出たのみで、普通の風邪より軽い症状でした。

（2022年8月7日 小林 義昭）

安倍氏国葬反対集会開催！

― 安倍氏国葬は憲法問題だ ―

7月29日、JR草津駅東口テラスで9条改憲NO！市民アクション滋賀主催の「安倍氏国葬反対集会」が行われ、200名の市民が集まった。

集会は斎藤敏康共同代表の主催者挨拶で始まり、市民団体や共産党・社民党・新社会党の各党代表の発言があり、安倍の反民主主義性を述べられた。

新社会党の三代正臣代表は、「安倍の反動性は多岐に渡るが、秘密保護法、集団的自衛権の行使、さらに、2015年の内閣人事局設置や法政局長官の入れ替え等自分たちの都合のいい任命で安保法制を通過させ、忖度の土壌をつくり、市民や労働者無視の反民主主義の強権政治であった。沖縄辺野古新基地建設問題でも沖縄県民の意思をも完全に無視。さらにモリカケ桜。政治の私物化で118回もの虚偽答弁を繰り返した。こんな安倍を岸田総理は『安倍の意思を引き継ぐ』という。これは憲法改悪にほかならない。」と発言。

主催市民アクション・しがの構成団体もこもごも登壇し、9条ネット・滋賀の沢井清副会長は、「教育問題でも政治の支配を受けないという根本原則を変え、自治体首長が政治介入出来るように教育委員会制度も改悪した。国葬は、一人のために全国民に喪に服することを求めるという今の個人尊重の憲法無視である」と、発言。国葬法消滅後の法的根拠もなく国会で議論もせず、税金を勝手に使うことも憲法違反。安倍を支持している人でも国費支出はおかしいと言われているとも報告した。

日本人特有かどうか、死者への免罪の気持ちを手にとつて国葬決定。この国葬も憲法問題だととらえ、国葬に反対の集会アピールを採択した。

（沢井 清）

◇ 読者からのおたより ◇

2022年8月7日 「敗戦記念日を覚え、平和を求める集い」

日本キリスト教団京都教区滋賀地区社会委員会と戦争させない1000人委員会・しがなどが中心の実行委員会の主催。大津市におの浜の解放県民センターホールにて。＼ウトロに出会い、ウトロで出会う＼と題して、ウトロの歴史と闘いをこの4月に宇治市ウトロ地区にオープンしたウトロ平和祈念館の斎藤正樹さんを招いて講演を受けた。会場は参加者数では多寡もなく、コロナ感染対策ばっちりの60人参加。測ったように何も図らずに程よく参加してくれるのがうれしい感じ。

斎藤さんは1949年生まれ、典型的団塊世代の全共闘活動家！ 68年をピークに全国の日

好評発売中！
待望の書
牙を抜かれたマルクス主義
斉藤幸平とマルクス・向坂・資本論
原野人 著

本書の主な内容
序
第1章 牙を抜かれたマルクス主義
第2章 小ブルジョアインテリの夢想
第3章 科学的社会主義は必ずよみがえる
あとがき

定価 2,200円＋税

▼注文はもよりの書店へ
▼10冊以上の注文は時潮社へ
1冊税込みで 2,200円（＋送料）
時潮社 東京都板橋区前野町 4-62-15
TEL (03)5915 - 9046 FAX (03)5970 - 4030
URL <http://www.jichosha.jp>

本の大学にたくさんいた社会を憂えた学生さん。だが、圧倒的多数は批判してやまなかった日本資本主義社会を背たろうて、高度経済成長の末期、その矛盾を忤怩たる思いでサラリーマン人生や医師・弁護士・教師・研究者・官僚などになって行った中で、意志貫徹型で役所に入り、「5時から男」（ジェンダーフリーの現在、叱られる表現だ！）というと語弊があつて、午後5時までは市役所の仕事をちゃんとやり、そのあとで部落解放運動や市民運動に突入し、1973年宇治市市役所職員を振り出しにちょうど50年、この日は半世紀の自分史を語ってもらふことになった。

宇治市内の4か所の被差別部落の2か所を組織化、そして自衛隊大久保駐屯地のちょうど北側、第2次世界大戦中の「京都飛行場」建設のための飯場後に住まれた在日の皆さんの集住地域の敗戦後、77年間の攻防戦に勝利し、在日の皆さんの人権と権利、居住権を守り切つて市営住宅建設、ウトロ平和祈念館の4月オープンとあいなり、斎藤さんは副館長に。同じくウトロを守る会の田川明子さんが館長就任。以来、週5日来館者は引きも切らずの4ヵ月弱4000人！コロナ感染問題がなく、韓国から入国できていたらどんな事態になっていたか。うれしい悲鳴とのこと。しかし、ウトロの住民は、まだちよつと緊張感ほほれていず、うれしいはずだが、どうしたものかという反応ではと斎藤さんは言われる。アパートになり、なんと今まではありえなかった孤独死もウトロで発生してしまったという。突然のウトロ地区立ち退き訴訟で敗北して約20年くらい。

21世紀にはいるころから海を越えて運動強化、ウトロの女性で農楽隊も作り、デモや集会もあり韓国の国会も動かしたおかげで最高裁判決で負けていたこの闘いを大衆運動で逆転するという、私たちの社会運動・市民運動の手本となる闘いを作ったウトロの闘い。

若手後継者もつれて、田川さん斎藤さんは、「何かあつたら」の時の出番でよくなっているという。うらやましい！！ウトロ地区のスライドも含め、2時間超のじつくりとした炎天下の会館内の真夏の学習会として、くめども尽きぬ学びがあつた。

10月にはフィールドワークで集い実行委員会として、ウトロ訪問も企画するという。滋賀のつどい実行委員会を中心の団塊の世代のおじさんたちならではの計画で、いささか肩ひじ張つてるが・・・私なら、そんな言うて間に京都駅から20分、普通電車で近鉄伊勢田駅から徒歩15分ですトロ現地にひとりでも行つてしまふが！！・・・そこが、良くも悪くも団塊の世代の方々の運動スタイルである。少しめんどくさく、演説が長いが、いい人たちである。

（稲村守）